

## 2014 JリーグU16 選抜ミャンマー遠征報告

報告者：清水エスパルス 池谷 孝

- 報告対象：各種別育成指導者
- 遠征期間：2014年8月16日（土）～21日（木）
- 場所：ミャンマー（ヤンゴン市）
- 参加選手：J1 J2各クラブから選抜された18名
- 参加者のレベル：各地域のU16 国体選抜のメンバーではない
- 静岡県参加選手：平松 昇（MF）、磯部勘太（GK）
- 対戦成績：（2勝1分1敗）

8/17	対	Yangon United FC U-20	1-3	●
8/18	対	Yadanabon FC U-20	1-1	△
8/19	対	Myanmar national team U-16	2-1	○
8/20	対	Ayeyawady United FC U-20	3-1	○



### ■まとめ

成田で初めて出会って2日後にはヤンゴン・ユナイテッドのU20と試合というタイトなスケジュールであり極めて限界の多い遠征であったが、遠征の目的を「小さな育成」と「小さな勝利」に置き、勝利<内容<育成<勝利（勝利より内容重視、内容より個々の変化と育成重視、育成よりやはり勝利が大切）というサイクルを意識しながら、「意識の変化」を促すことを意図した。

ピッチ上では、ゴールを奪い、ゴールを奪うためにボールを奪うサッカーができるよう事前に準備したパワーポイントによる資料をレクチャーして臨んだ。スタッフの連携もよく、トレーナーの対応も懇切丁寧で、スタッフ、選手ともども充実した遠征であった。



### ■成果

ヤンゴンは雨季であり、温度湿度とも高く、グラウンドも日本のグラウンドコンディションには遠い。なおかつ短時間のトレーニングでチームを作り、年上の相手と戦わなければならないという状況は、選手の技術、メンタルに効果的に働きかける要素が多かった。選手はそうした環境の中で、スムーズにコミュニケーションをとり自分の課題に向き合っておりチャレンジできていた。ピッチ外での生活も、発熱や下痢などのコンディション不良者も出したが、概ね自己管理ができ、それぞれの仕事分担も滞りなく、よく食べよく話し非常に良い雰囲気でも遠征ができた。

これらの素地が、絶対勝つべき試合であったU16 ミャンマー代表との試合と最終戦の勝ちにつながったと感じる。遠征最終日の選手と撮った写真での彼らの表情が遠征の成功を表しているように思う。「男子三日会わざれば刮目してみるべし」、「若いときに旅をせねば老いての物語がない」を実感した、私自身にとっても実りある旅だった。



### ■課題

16歳という年齢が、大人の組織的サッカーを志向しなければならない年代、チームの中で個の力を示す年代、ポジションのスペシャリストに近づく年代、技術的、持続的には完成に近く、筋力的にはこれからそのトレーニングを増やしていかなければならない年代であるとするなら、選手個々がその自覚をもって「やりたいプレー」、「やらなければいけないプ

プレー」、「やってはいけないプレー」を整理して試合に臨まなければならない。その意味では、プレーの仕方がまだ中途半端で、相手CKの時に給水にいつてその隙に失点するというような場面を含め、簡単にボールを奪われたり、決定的なピンチにつながる場面が見られた。

ボール技術は及第点だが、意識的に、「たくさん観る、たくさん走る、たくさんコミュニケーションをとる」ことがまだまだ物足りない。今回のような多種多様な経験こそ選手の意識を変え、技術を変えていくものだとして再確認した。

### ■平松 昇（エスパルスMF）の評価と課題

小柄であり体格的なハンディを持っているが、サイドの中盤もしくはトップ下でのプレーは小気味いい。プレッシャーの少ないポジションにいて、シンプルにボールをさばき攻撃のテンポを作ることができる。常にディフェンスの背後へのスループスを狙い決定機を作り出すことができる。U16 選抜ではなくてはならない存在で大事な試合ではほぼプレーした。

課題は、相手のプレッシャーを受けたときのプレーの精度と、局面が見えてはいるが技術の問題で相手にパスが引っかけってしまう場面が散見されたことである。育成年代の選手に時々見られる、「味方は見ているが相手を見ていない」ことも考えられるが、イメージがあるが広角的視野の確保が不足しているということと一本のパスでの成果を急ぎすぎることかもしれない。

現地の人には印象的に映り非常に高い評価を得たプレーだった。エスパルスに戻ったら、ストロングポイントを自信を持って出し切るサッカーを期待したい。1年後2年後エスパルスの戦力となる選手に育ってほしいと願う。



### ■磯部勘太（ジュビロGK）の評価と課題

体格も大きく性格も明るい。前向きでよくよしないのはGK向きであると感じる。サブキャプテンを任せた。自分の技術的課題を自覚しその克服に取り組んでいるように感じた。詳しくは佐藤GKコーチのコメントを待ちたいが着実なトレーニングをステップアップにつなげてもらいたい。

失点の場面では、やや準備とコーディネーションに課題が見られたので改善のトレーニングを積んでほしい。1戦2戦と先発したが、遠征後半、発熱で活動ができなかったのは残念である。



### ■ミャンマーのサッカー

もともとイギリスの植民地で、サッカーの環境はあり、実際、町中でもグラウンドとゴールをよく見た。人々は素朴で親切である。初戦のヤンゴン・ユナイテッドは資産家をオーナーに持ち諸施設は欧米並みに整っていた。対戦した4チームはいずれも個々にボール技術がありチームとしても組織的に機能していた。個の存在感はそれほどでもないがゲーム内容自体は可能性を感じた。協会の方向性、クラブのビジョンと組織力、サッカー選手の地位向上、経営的視点やお金の使い方が効果的なものになっていけば将来の可能性を感じた。

#### <スタッフ>

監督	池谷 孝	清水エスパルス
コーチ	小野 智吉	横浜FC
GKコーチ	佐藤 浩司	横浜F・マリノス
トレーナー	荻堂 博行	平成医療学園専門学校
主務	重野 弘三郎	Jリーグ

1 磯部 勘太	ジュビロ磐田	4 伊藤 敦樹	浦和レッズ
18 武村 勇希	ファジアーノ岡山	14 小澤 知也	横浜FC
3 上田 健斗	ベガルタ仙台	11 杉山 俊	松本山雅FC
2 坂本 寛之	横浜F・マリノス	17 平松 昇	清水エスパルス
5 酒井 匠	ヴァンフォーレ甲府	7 川原田 創司	FC岐阜
6 原田 理貴	カターレ富山	8 川端 壮太	大分トリニータ
12 今井 寛士	愛媛FC	9 志村 弘樹	ベガルタ仙台
13 大友 龍聖	ロアッソ熊本	10 荻原 溪太	アルビレックス新潟
15 金井 亮太	水戸ホーリーホック	16 今宿 清元	セレッソ大阪



ミャンマーU16代表戦